

# 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：商工費 項：観光費 目：観光開発費

## 事業名 「飛騨・美濃すぐれもの」PR事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 観光国際局 観光企画課 観光資源係 電話番号：058-272-1111 (内 3058)

E-mail：[c11334@pref.gifu.lg.jp](mailto:c11334@pref.gifu.lg.jp)

1 事業費 4,141千円 (前年度予算額：3,524千円)

### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	3,524	0	0	0	0	0	0	0	3,524
要求額	4,141	0	0	0	0	0	0	0	4,141
決定額	4,141	0	0	0	0	0	0	0	4,141

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

「岐阜県ブランド」の看板商品にふさわしい県産品「飛騨・美濃すぐれもの」の発掘・認定を行い、首都圏における販売拠点の設置、各種イベントへの参加、広報ツールの活用など、戦略的なプロモーションを実施する。

### (2) 事業内容

#### ① 「飛騨・美濃すぐれもの」の認定審査会の開催 (735千円)

- ・ 審査内容 1次審査 (書類審査)  
2次審査 (現物審査・プレゼンテーション審査)
- ・ 審査会委員 百貨店・専門店のバイヤー、メディア関係者等

#### ② 大都市圏等における販売プロモーションの実施 (3,387千円)

- ・ 県産品販売拠点における「飛騨・美濃すぐれものフェア」の実施
- ・ 各種イベントへの出展
- ・ 「飛騨・美濃すぐれもの」カタログ・冊子作成

#### ③ 事務費 (19千円)

### (3) 県負担・補助率の考え方

県産品を対象とした認定事業であり、全額県負担は妥当。

### (4) 類似事業の有無

県産品全般を対象とした認定制度は他にはない。

## 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	382	審査会委員費用弁償、職員打合せ
需用費	203	認定商品展示用買い上げ、事務費、会議費
役務費	19	事務費
委託料	3,387	販売 PR 拠点設置、フェアの開催、カタログ・冊子印刷
使用料	150	認定審査会会場借上げ
合計	4,141	

## 決定額の考え方

## 4 参考事項

### (1) 各種計画での位置づけ

岐阜県長期構想

Ⅱ ふるさと岐阜県の資源を活かした活力づくり

1 モノをつくって、地域外からのお金を稼ぐ地域をつくる  
(県産品の販売を拡大するために)

岐阜県観光振興プラン

### (2) 国・他県の状況

飛騨・美濃すぐれものを戦略的にプロモーションすることにより、認定商品の認知度向上と販路拡大を図るとともに、岐阜県のイメージアップ並びに観光誘客に繋げる必要があるため、継続する。

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
 あらゆる機会を捉え、県産品の看板商品である「飛騨・美濃すぐれもの」を戦略的にプロモーションすることで、商品の認知度アップと販路拡大をめざすとともに、岐阜県のイメージアップならびに観光誘客につなげる。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
		(H29)	(H30)	(前々年度末時点)		
観光消費額	億円 (H-)	2,819億円 (H29)	2,822億円 (H30)	2,933億円 (R1)	3,300億円 (R7)	88.9%
観光入込客数（実数）	万人 (H-)	4,556万人 (H29)	4,603万人 (H30)	4,800万人 (R1)	4,900万人 (R7)	98.0%
外国人延べ宿泊者数	万人 (H-)	98万人 (H29)	148万人 (H30)	166万人 (R1)	180万人 (R7)	92.2%

### ○指標を設定することができない場合の理由

### （前年度の取組）

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
- ・R1年度新規認定11商品、更新認定15商品
- ・「日本百貨店しょくひんかん」（JR秋葉原駅高架下CHABARA内）に「飛騨・美濃すぐれもの」常設販売コーナーを設置し、プロモーションを実施
- ・令和元年度「飛騨・美濃すぐれもの」認定商品発表会を名古屋栄東急REIホテルにて開催（11月）
- ・県産品販売拠点で「飛騨・美濃すぐれものフェア」を開催
  - ・岐阜おみやげ川島店（11月）
  - ・アクティブG内「THE GIFTS SHOP」（11月）

(前年度の成果)

<ul style="list-style-type: none"><li>・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果</li><li>・「飛騨・美濃すぐれもの」認定<ul style="list-style-type: none"><li>・R1年認定実績：新規11商品、更新15商品 計26商品</li><li>・R1年累計認定数：83商品（更新されなかった商品を含む）</li><li>・認定商品の販売プロモーション（R1年実績）</li><li>・「日本百貨店しょくひんかん」における通年販売（売上：8,840千円）</li><li>・「飛騨・美濃すぐれものフェア」の開催（2店舗） （岐阜おみやげ川島店、THE GIFTS SHOP）</li></ul></li></ul>
--

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"><li>・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い      △：必要性が低い</li></ul>	
(評価) ○	観光消費額の拡大と観光誘客につながるため、事業の必要性が高い。
<ul style="list-style-type: none"><li>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない</li></ul>	
(評価) ○	認定商品のメディアへの露出度や外部からの問い合わせが年々増加しており、県産品の認知度アップ、販売促進につながっている。
<ul style="list-style-type: none"><li>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている      △：向上の余地がある</li></ul>	
(評価) ○	1次審査を書類審査として行うなどして、認定審査会の効率化を図っている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"><li>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 「飛騨・美濃すぐれもの」だけでなく、県産品全体と観光の一体的振興策について、部内関係課や農政部、子ども女性局と協議していく必要がある。</li></ul>
---

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"><li>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 県産品の看板商品として認定することにより、商品のレベルや事業者のモチベーションがアップするとともに、当該商品の露出度が増加することにより、岐阜県の認知度、イメージアップにもつながるため、事業を継続していく必要がある。</li></ul>
---

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせる理由や期待する効果 など	